



第16号

2000.4



社団法人 千葉県緑化推進委員会

特集 今年、満50歳



郷土緑化運動50周年を迎えて

緑化運動は、戦後の1950年(昭和25年)に「荒れた国土に緑の晴れ着を」を合言葉にして全国的に始まりました。

これを受け同年に、千葉県緑化推進委員会が、郷土緑化の推進母体として設立され、2000年という節目の今年、無事50周年を迎えることができました。

この間、みどりの祭典(郷土緑化県民大会)や緑の募金運動、みどりのボランティア推進事業、更に未来を担う少年少女たちを育むみどりの少年団育成事業など、県民の皆様のご支援、ご協力をいただきながら行政と一体となって、緑豊かな郷土の実現に努めてまいりました。

来る21世紀は「環境と共生の時代」と言われておりますが、近年、環境問題が複雑多岐にわたっているなかで、特に、森林・緑は心に潤いや安らぎを与えるばかりでなく、防災機能を果たしたり、水を育んだり、さらには地球温暖化の防止策となるなど公益的機能を担っています。

このような状況にあって、緑化運動への期待は大きく県民の皆様のご要望もますます高まっています。

長年にわたって培われてきた貴重な緑を次代に引き継ぐためにも当委員会の果たすべき役割と責任は重大です。

50年といえば、人間ならこれからという時期です。これまでの実績に甘んじることなく、県・市町村にご協力を仰ぎながら、さらなる緑化の推進に努力してまいり所存でございます。

今後とも、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

社団法人 千葉県緑化推進委員会
会長 井上 裕

今年、満50歳になる(社)千葉県緑化推進委員会です。「へえ～、初めて聞いた」、なんていう方のために、当委員会が今、行っている主な活動をご紹介します。ご興味のある方は気軽にご連絡を。



緑の募金 (春と秋)

一句できました。ワンコインあなたの気持ちのみどりを育てる。募金して下さった方には緑の羽根を「はい、どうぞ!」

緑の募金

県民植樹運動 「緑でつつもう我が家も街も」を合い言葉に、毎年、県内各地に植樹を行っています。「てことは、樹齢50年の木もあるってこと?」



県民植樹運動

森林浴 県内の緑豊かな山を歩きながら森のフィトンチッドを全身に浴びて「うーん、気持ちいい!」



森林浴

になりました。

緑の少年団活動 自然の中での活動を通じて、自然への理解を深めます。「この木、来年は花が咲くのかなあ」

緑の少年団活動



緑のボランティア活動 このように山の下草刈りのほか、間伐、植樹などを行います。さっぱりした山を眺めて達成感は100%。「いい汗かいたぞ！」



緑のボランティア活動

樹木ラベル 県内の小・中学校に樹木ラベルを提供しています。「私たちが名前を調べて取り付けたよ〜。付いているとその木が身近に感じられるね」



樹木ラベル

自然観察会 千葉県環境緑化センターなど、身近な緑を観察します。ここは自然の宝庫なのです。「何見つけたの、見せて見せて！」



自然観察会

郷土緑化運動50周年にあたり



(社)千葉県緑化推進委員会が、本年10月に設立50周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

戦後の荒廃した山林の復興のため始められた緑化運動は、現在では生活環境の向上を目指した都市緑化へも展開し、一人ひとりの心の豊かさの充足のために、身近な質の高い緑を求める運動の時期に入っております。

また、平成15年には、昭和28年の富津柿での植樹祭以来50年ぶりに、本県において全国植樹祭を開催することとなり、千葉県にふさわしい新たな緑化運動を展開する時代になりました。

変化の多い50年の歴史の中で、常に幅広い支持を得て、緑化運動を推進してこられました貴委員会の功績は非常に大きく、ここに改めて深く敬意と感謝の意を表します。

緑化運動は何よりも継続こそが重要であり、国際的な環境問題を視野に置きつつ、身近な緑化を充実するために、貴委員会の役割は、今後ますます重要となってまいります。県の緑化運動の中核を担う団体として、(社)千葉県緑化推進委員会のさらなる御発展を祈念いたします。

千葉県知事 沼田 武

年代	主な出来事
昭和35年	千葉県緑化推進委員会設立(10月30日) 「甕れた園土は緑の晴れ着を」とを合い言葉に全国的に緑化運動を開始
36年	緑の羽根募金運動を開始
37年	県民による県土緑化運動を開始
38年	第4回全国植樹祭を富津柿で開催(昭和天皇・皇后陛下臨幸) 天童・豊后高田へも出席
45年	緑化運動ポスター原画コンクールを開始 市町村の木が指定される ゴルフ場の緑化促進基金による公共施設緑化事業を開始
53年	第3回県土緑化国民大会を房総屋上段の浜野で開催し県下全市町村の木を植栽
54年	千葉県緑化運動30周年記念郷土緑化国民大会を県立美術館で開催
57年	みどりの少年団を結成・活動を開始 委員会の組織体制の強化(県および全市町村が新たに会員となる)
58年	みどりの少年団育成協議会を設置 千葉県人口百万人達成記念植樹を鴨川市で実施
59年	公益法人に改組設立・特定公益増進法人に承認、「千葉県緑化基金」を設立・造成を開始
60年	第5回全国植樹祭を富津柿で開催(皇太子陛下・同妃陛下臨幸) 公園で「緑と水の森林基金」を設立・造成開始
平成元年	4月29日(みどりの日)に、また4月29日(同日まで)が「みどりの週間」に制定される
5年	「緑の雑誌「グリーン・センス」の創刊
7年	「緑の基金法」が制定され、緑の羽根募金から「緑の基金」に名称を変更した
8年	みどりのボランティア推進事業の開始 秋祭・緑の基金が追加開始された
10年	千葉県環境緑化センターに事務所を移転 千葉県環境緑化センターの管理委託事業の開始
11年	千葉県郷土緑化国民大会を「千葉県みどりの祭典」に名称を変えて国民参加型とした

〔社〕千葉県緑化推進委員会の主なあゆみ

千葉の散歩道

さんぶの森公園 (山武町)

緑と花と木がいっぱいの 人のためのサンクチュアリ

サンプスギの産地として有名な山武郡山武町。その中心地ともいえる、町役場や町民会館のすぐ隣りに「さんぶの森公園」があります。

全体の面積は12万4512平方m。昭和63年のふるさと創成事業をきっかけとしてスタートしたもので、豊かな緑を次の世代に残すために作られ、おととしの4月にオープンしました。

園内に入ってすぐに迎えてくれるのは、サンプスギをイメージした、高さ40mを誇る公園のシンボル「グリーンタワー」です。ここからは成田空港からの離着陸が遠望できるほか、太平洋、筑波山、富士山なども展望できます。そして眼下に広がる豊かなサンプスギの森。緑のどんがり帽子をかぶったような、なんとも愛らしい景色が見られます。

タワーの隣りに位置する「ふれあい広場」には、日本さくらの会から寄贈された600本もの桜の木が並びます。芝生が敷きつめられた広場ではお弁当を食べたり、フリスビーで遊んだりするファミリーが。

ほかにも、スケートボードやフリーマーケットの場所として活躍する「わくわく広場」、水鳥が集まる池や子供たちが水遊びできる流れのある「やすらぎの池」、バーベキューができる「ピクニック広場」、テントが張れる大型の木製デッキを備えたキャンプ場「どんぐりの杜」、四季の花が咲く「花の谷」などがあり、思いきり自然に親しむことができます。

緑も花もウッドデッキもうれしいここは、まさに私たちのためのサンクチュアリ。気持ちの隅々までナチュラルになってみませんか。

■利用料/無料。ただし、グリーンタワー100円、テントデッキ、バーベキューピットは有料

■利用時間/特に制限なし。ただし、グリーンタワーのみ午前9時～午後4時30分

■休園日/なし。ただし、グリーンタワーなどの施設は月曜日は休み

■問い合わせ/公園広場などについては公園管理事務所(☎0475-80-9100)へ。キャンプ、バーベキューについてはグリーンタワー(☎0475-80-9103)へ

*「さんぶの森公園」は、今年、みどりの日に行われる「みどりの祭典」の会場です。



今年2月、和田町の花園地区にある抱湖園(ほうこえん)では、桜まつりが盛大に開かれました。「2月に桜まつりって、ちょっと気が早いのでは?」。そうなんです。この桜は、一般的に知られるソメイヨシノより開花が早い品種なのです。その品種の種明かしをする前に、この抱湖園を造った人について、少し解説させてください。



問宮七郎平と、抱湖園の造成

ここを造った人の名前は問宮七郎平といます。和田町で生まれ、安房の花栽培の父と呼ばれ、生涯を花づくりにささげた人です。現在では、南房総は花の産地として有名ですが、その頃はまだ、農業だけでは暮らしがなりたないため、ほとんどの家が漁業などの兼業で生活をしていました。そんな中、暖かいこの地なら、花は良く育つだろうし、農家の人たちの生活も楽になるだろうと、七郎平は観賞用の花の栽培研究に取り組んだのです。今では最もポピュラーなストックの温室栽培に、日本で初めて成功したのも、この七郎平なのです。そんな中の昭和初期、七郎平は、抱湖園を造りました。海沿いに花畑が広がる和田町ですが、抱湖園は山の中腹にあります。七郎平は、山の急斜面を切り開き、桜、ツツジ、サザンカなどを植えたのです。小さな湖を抱き囲むような花園ができたため、名前は抱湖園と付けられました。

さて、問題の桜です。早い場合、元旦の朝から咲き始めるために通称は「元朝(がんちょう)桜」といわれていますが、町で専門家に鑑定を依頼したところ、ウスカンザクラ(薄葉桜)と判明しました。カンヒザクラとヤマザクラの交配品種と考えられます

千葉県の花きの生産は、平成9年には静岡県を抜いて全国第2位になりました。こうした実績の最初の一步を踏み出した人、問宮七郎平の夢が、今年、50年目にして開花しました。折りしも当委員会も今年、発足50年。花と緑の道はあつたものの、豊かな自然を育てたいという願いは一つです。当委員会の緑化の活動は、まだまだこれからも続きますが、問宮氏が果たした夢とは……

50年目の桜、咲く。和田町の抱湖園に咲く元朝桜



元朝桜。花は淡紅色で径12~16mm。花弁は5枚で開花は1月~2月末。散ってもなお花をつけているかのように、額がピンク色を呈している



▲今では花の栽培地として有名な和田町

が、この品種には複数のクローンが含まれるとのこと。地元の人は、梅と桜を交配させたものではないかとも話しますというのも「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」の言葉にあるように、桜は本来、枝を切ってしまうのはばかられるのですが、この元朝桜は、切ったところから次の芽が出てくるので、まるで梅のようだというのです。そんなわけで、枝での出荷がしやすく、早出しの切り花の桜として人気も高いのだそうです。出荷を目的に花の研究をしていた七郎平にとっては、理想的な桜だったに違いありません。

ところが、七郎平の死後、残っていた元朝桜は30本足らず。そこで、地元の人たちが「七郎平(元朝)桜を育てる会」を組織し、「花園の名前に相応しく、桃源郷にしよう」という七郎平の遺志を継いで整備を開始。その成果が実り、今では300本以上の桜が育ち、抱湖園は桜の名所になっているのです。

そして今年、1950年に七郎平が病に倒れた時に「50年後に花で盛んな和田町を見てみたい」と言っていた年です。七郎平のその夢をかなえるために、「七郎平(元朝)桜を育てる会」、和田町観光協会、文化サークル和田の3者は、数年前から「元朝桜と梅を見る会」を結成し、夢の実現に準備を進めてきたのです。

七郎平の、そして和田町の人々の夢は、ついに今年2月の桜まつりをもってかなえられました。早春の光を浴びながら、抱湖園も、和田町の花畑も、見事な花で埋め尽くされていたのです。

元朝桜の幹が太くなり、立派な花を咲かせるためには、多くの人々の根気強い努力が必要でした。自然を育てるといのは、すぐには結果が出ないものです。その点では、緑化運動も同じです。息の長い地道な努力あってこそ、緑を育てるとい、地球規模で望まれている夢が達成できるのです。

抱湖園は、これからソテツなどがつやつやとした葉を見せてくれます。また、展望台からは和田町を一望できるほか、太平洋の大海岸も見渡すことができます。抱湖園を加えたハイキングコースもありますので、休日などに出かけてみてはいかがでしょうか。

緑 自 慢

千葉市内の住宅地、美浜区稲毛海岸2丁目。高層の集合住宅が立ち並ぶ街並の中に、稲浜小学校(池田弘校長)はあります。世帯数が多いから、きっと児童の数も多いのだろうなあとはいきや、なんと稲浜小学校は全校生徒の数が、昨年度は63人、その前年は75人と、千葉市内118の小学校の中で最も少ない学校なのです。少子化の波を直接的に受けているようです。児童数が少ないだけあって、教職員の数も多くはありません。そのため、校長先生も授業を教えています。「きょうはね、アジアの国々についてなんです。こうして生徒たちと直接ふれあえるというのが実に楽しいのです。小人数だからこそできることでしょうね」。

そんなイキのいい校長先生や、小泉教頭先生をはじめとする教職員の先生たち、そして全校生徒が取り組んでいるのが環境教育です。なにしろ学校周辺の土地は埋め立て地。そこで先生たちは、子供たちに肌で感じられる自然を体験させてあげたいと考えたのです。

まず、手初めに作ったのが簡単な観察池。平成10年6月のことでした。意外に容易にできたので、続いていっそ

ビオトープ(人工的に作った自然と生物体が共生できる環境)づくりにチャレンジしようということに。幸い、地域にビオトープに詳しい人がいっしょ、お手伝いしてもらえることに。同年10月から子供たちと先生、それに地域の人々も加わって池を掘り始め2月には完成。その間に、教頭先生は県内の田舎に出向き、水辺に生える草を分けてもらい、せっせと学校に運びました。その結果、池の回りにはクレソン、マコモコウホネ、クワイ、イグサなどの水性植物が育つ湿地もできました。

昨年4月からは「総合的な学習」にも活用され、「ぼくらは水の不思議探検隊」をテーマに、4年生がビオトープの池の生き物や水質を調査。水中にはクロメダカ、ドジョウ、タニシ、ヤゴなど200匹もの生物が住み着いていることがわかりました。

稲浜小学校の環境教育は、このほか、千葉県みどりの少年団活動へ参加、こどもエコクラブなど環境保護団体への加入、森林調査隊で間伐を体験など、多岐に渡っています。そして、こうした活動を校長先生が論文にしてまとめたところ、なんと「ちば環境文化賞」の大賞に輝いたので。でも、池田校長先生の場合、ここで終わったりはしません。数十m離れた築山から雑木林を通過してビオトープまで流れる小川を作ろうと提案。もちろん、生徒たちや先生たちも大乗り気。というわけで、このビオトープ、現在も成長し続けている最中です。「完成は今年ですかね、教頭先生?」とは校長先生。

今では、地域の人々が、池への水やりや校庭の木の枝打ち作業も手伝ってくださるとか。とてもアットホームな感じがする稲浜小学校。災い転じて福となす。生徒数が少ないということが、学校と地域社会の敷居を低くし、教育の場として理想に近い状態を作りつつあるようでした。



この本・CD-ROM オススメです。



森のささやき
絵・文 葉祥明

「瞳を閉じて、耳をすませば、熱帯な心に森のささやき聞こえてくる…。子供たちよ、子供の心を持ったものたちよ、森を蘇らせてくれ」。葉祥明氏の美しい絵があふればかりに描かれ、さらに心に響く言葉が日本語と英文で添えられています。この絵本の収益と著者印税の一部は、環境保護団体を通じて植林事業に役立てられます。

出版文化社 定価 1,500円+税

Our Forest
私たちの森

好評につき、再度登場です。やさしく、楽しく、科学的に、しかも身近なことから森について学べるCD-ROMです。美しい画像と、しっとりとした古行和子さんのナレーションが楽しめます。

Windows, Macintosh 対応。企画制作 / (株)大伸社、(株)ソフトデバイス、京都大学農学部付属芦生演習林、(社)国土緑化推進機構 定価 1,260円(消費税込み)

*抽選で「森のささやき」を3名、「私たちの森」を5名の方にプレゼントします。ハガキに希望の品、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページの右下を参照してください。締め切りは6月30日(当日消印有効)です。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

みどり通信 マイシャッター チャンス



緑や自然をテーマに撮影した写真を募集中です。庭の緑、名前のわからない植物など、なんでもOKです。気軽にご応募ください。撮影日時、場所、コメントなどを書き添えて、本委員会(あて先は8ページの右下参照)マイシャッターチャンス係へ。掲載された方には、オリジナルテレホンカードをさしあげます。

企業の中の緑

今回は50周年を記念して、「緑化推進」に取り組んでいらっしゃる企業の、各担当者の方に登場していただきました。

東日本電信電話株式会社

NTT千葉支店総務部 木村清さん

NTT千葉支店では、昭和60年4月の電電公社からNTTへの民営化を記念して、千葉県立清和県民の森の一角に、スギ、ヒノキ、それぞれ1800本を社員の手により植樹させていただきました。「電電の森」という名前もいただきました。

現在では、植林することはできませんが、森林の働き、重要さを社員に理解してもらうよう社内PRを行い、少しでも自然や緑を保護できるよう、毎年緑の募金活動を実施しております。

株式会社千葉銀行

人事部 土橋直樹さん

私どもでは、地球環境保護が叫ばれ、緑に対する関心が高まる中、緑を育て、より良い環境を創造していくことは、私たちにとって重要な課題であると考え、平成3年、県が推進する緑化基金の趣旨に賛同いたしました。そこで職員が一同に集う行内イベントである「ちばぎんふれあいスポーツフェア」の一環として、「チャリティバザー」を企画実施し、その売上金を、千葉県を通じて千葉県緑化推進委員会に寄贈させていただいております。

また、毎月1回、本店では有志を集めて、周辺企業の方々と分担して、国道16号の緑地帯のゴミ拾いを行っています。これからも、緑を大切にしていける気持ちを育て、広く周囲の方々にも自然に伝わる活動を根気強く続けていきたいと考えています。

ジャスコ株式会社

東関東カンパニー

環境・社会貢献活動事務局長 入江正了さん

地球規模で森林破壊が進み、里山や鎮守の森などが生活する地域から消えつつあることを元に戻そうと、1991年から、宮脇昭横浜国立大学名誉教授の指導のもと、地域に自生する樹木の苗木をお客様といっしょに植樹をする「イオンふるさとの森づくり」を行っています。これまでの植樹は、国内外245店舗で実施し、330万本になっています。

特に、'97年から、中国・北京市人民政府との共催で、万里の長城森の再生プロジェクトを行っており、本年の5月までに万里の長城周辺の荒地地、約30haに39万本の苗木を植樹しています。

また、このほか、郷土のみどりづくりに協力するため、公共施設等の緑化事業資金として、千葉県に寄贈しています。

株式会社袖ヶ浦カンツリー倶楽部

総務部長 岩塚純一さん

千葉市の東部に位置する袖ヶ浦カンツリークラブは、袖ヶ浦コース(千葉市緑区辺田町)が昭和35年にオープン、面積27万坪、18ホール、そして新袖コース(千葉市若葉区富田町)が昭和40年にオープン、面積24万坪、18ホールと、2コースにて運営いたしております。

両コースとも、樹齢数百年と年輪を重ねたマツ、スギが多く、これら樹木は、ゴルフ場各ホールのフェアウェイアウト、芝の保護にも重要な役割を果たしております。しかし、樹木は生き物。虫食い・防御、剪定、枝払いなどに注意し、景観を損ねないよう、常に気配り、管理が必要で、ゴルフファーマーが緑に包まれた環境で気持ち良くプレーできるよう、また、ゴルフ場が自然や緑と一体となっているように、私どもも愛情精神で樹木に接し、育成に努めております。こうした気持ちの延長として、私どもでは、定期的に、緑化基金にご協力申し上げている次第です。



緑化基金へご寄附ありがとうございました。

※寄附者総数96 非平成11年7月から12月まで。順不同、敬称は略させていただきます。

中山主一	拓殖造園土木
徳アト造園ハタケヤマ	植樹造園
徳森門	田辺造園
朝生林業	千葉砂防植樹造園
徳塚塚造園	種子黄植物園
徳塚塚緑化土木	千葉造園土木
石川造園土木	千葉北都ニュータウン造園
徳石橋造園土木	中相造園土木
徳いすみ造園	葉山緑化建設
市原造園	徳島造園
伊東在豊園	東金造園土木
伊藤造園	東総造園土木
伊藤上造園	東松造園
徳植草園	東正造園土木
徳植止造園	徳東城園
徳史造園土木	徳宮藤ガクア
南田造園	宮崎造園
大村園緑化	徳成造園
小川造園	徳成造園土木
南小川造園	徳南造園
南上総一河園	徳日録
徳舞造園	徳本屋造園
鎌ヶ谷造園土木	徳馬場造園土木
加茂造園	林樹緑地建設
河崎造園土木	林造園土木
川西造園土木	徳平造園土木
徳新造園	南平造園土木
徳草造園	フタバ緑化産業
東京造園	南府馬造園土木
東京シテイサービス	房総グリーンセールス
京業緑化工事	徳北造園
香取園緑化建設	徳北造園緑化
徳丸風グリーン	南堀川植木
徳香南園	徳マサヤ
三協グリーン	みかど造園
山武造園土木	三木造園土木
徳志津グリーン	徳資本園
徳秋香園	徳六三四造園
徳和造園	山崎緑化建設
徳光園	徳橋造園
徳武造園土木	古野造園
造園土木伊藤造園	末木造園土木
徳ダイカワ	徳緑造園
高山造園土木	徳和造園
	徳和造園産業
	徳和造園
	第19回緑の少年団交歓集會参加者
	徳袖ヶ浦カンツリー倶楽部

春季・緑の募金のお祝い

平成12年度 緑の募金運動 目標額3,500万円

3月1日～5月31日、県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は本委員会、各支庁産業課、各市町村窓口などで受け付けております。



県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

◎企業等職場単位での募金や、催しなどでの募金運動も推進しておりますので、ご協力、ご関心のある際は本委員会までご連絡ください。



平成11年度においては、春季、秋季の2回を実施し、その募金総額は35,511,347円に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるより良い環境づくりを目指し、学校や公園といった公共施設などの緑化や、緑化思想の普及啓発等に使われています。

またその一部は、「地球を救え」をスローガンに、世界規模での緑化運動や森林の整備に役立てられています。

第51回千葉県みどりの祭典を開催します

第51回千葉県みどりの祭典を開催します。緑化功労者の表彰、記念植樹、苗木や花の種の無償配布、木工教室、みどりのコンサート、農林産物の展示即売ほか、みどりに関する楽しい企画が盛りだくさん。

お気軽にご参加のうえ、「みどり」を感じてください。

■日時 4月29日(土・祝) みどりの日
午前10時～

■メイン会場 さんぷの森公園(山武郡山武町)
*当日はJR日向駅から無料バスを運行します。

山の記念植樹の参加者募集

今年は緑化運動50周年にあたり、これを機に第51回千葉県みどりの祭典の併催行事として「山の記念植樹」を実施します。

参加希望の方は下記のとおりお申し込みください。

■日時 4月16日(日)、午前10時～12時
■場所 君津市豊英「清和県民の森(豊英県有林)」
■募集 先着順200名
*電話で本委員会まで事前にお申し込みください。

苗木配布会を実施します

各家庭からの緑化を目的に苗木配布会(無償)を実施します。

■配布日時 4月24日(月)、午前11時30分～
■場所 JR千葉駅前広場(千葉都市モノレール下)
■配布苗木 コクチナシ 1,000本
マリーゴールド 1,000本

*先着順、配布終了時点で本催しは終了します。

国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成11年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品の展示会を、下記のとおり実施します。県内の小・中学生が心を込めて描いた作品です。ぜひご覧ください。

期間	場 所	展示作品
3/7～ 4/9	千葉市中央区青葉町977-1 「緑立青葉の森公園 公園センター内」	●特別賞●特選 ●入選の計72点
4/25～ 5/1	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」	●特別賞●特選 の計36点
5/3～ 5/11	千葉市中央区新千葉1-1-1 「JR千葉駅構内中央コンコース」	●特別賞●特選 の計36点

*なお、展示作品は展示場所により、上表のようになっています。

●季節の花● シモクレン



写真提供/吉野鐵氏

別名モクレン。名前の由来については諸説ある。花がハスに似ているから木蓮であるとか、匂いがランのようだから木蘭であるなど。シモクレンは花が赤紫色で、中国原産といわれ、古くから高貴な花木として王宮や寺院などに植えられていた。花弁は6枚で4月～5月に開花する。夏目漱石が「草枕」の中で「木蓮は樹下に立つ人の眼を乱す程の細い枝を徒(いたず)らには張りぬ」と書いているように、仲間ハクモクレンとは違い、あまり枝葉を伸ばさないため、小さな庭でも楽しめる。花言葉は「自然への愛、荘厳、恩恵」。

紫木蓮の暗き豆腐屋の笛まで

久保田月鈴子

表紙の絵

表紙の作品は、平成11年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校低学年の部で千葉県教育長賞を受賞した、長生郡長南町立豊栄小学校3学年・三十尾雅さんの作品です。



グリーンえっせんず 第16号

2000年4月1日発行

発行/社 千葉県緑化推進委員会

〒299-0266 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

編集/凸版印刷(株) TEL.043-245-7071

この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。